

倒産集計**信用交換所京都本社**

10年上半期(1~6月)の繊維倒産

件数は3年連続、負債は4年ぶりに減少**▼全国▲ 発生件数=270件 負債額=1379億7100万円**

2010年上半期(1~6月)の全国繊維業者の倒産(負債額1000万円以上=整理・内整理含む)は270件で、前年同期比で21件(7.2%)減少し、平成に入り06年同期の267件に次ぐ低水準となった。

負債額は1379億7100万円で、前年同期比834億3700万円(37.7%)減少した。負債額100億円以上の大型倒産は、U.F.O.(株)(大阪府中央区、婦人服ほか卸、負債額368億円)、同社関連会社のGFS(株)(所在地・業種同、同160億円)、小倉貿易(株)(東京都中央区、産業資材卸、同100億7800万円)の3件が発生(前年同期同)。しかし、上記3件を含め10億円を超える大型倒産は、(株)オリゾンティ(大阪府西区、婦人服製造・小売、同84億6400万円)、岸商事(株)(石川県羽作市、合繊維物製造、同47億円)、(株)キンカ堂(東京都豊島区、衣料品・服地・生地ほか小売、同45億7000万円)など20件(同41件)にとどまり、負債額は4年ぶりに減少に転じた。

08年秋のサブプライムローン問題に端を発した世界同時不況の影響で消費者の生活防衛志向が高まり、百貨店・スーパーをはじめとした衣料品の販売不振が強まる中、09年上半期は上場企業のトミヤアパレル(株)、小杉産業(株)、地方百貨店の雄であった(株)丸井今井、業界老舗の泰道リビング(株)などといった著名企業の倒産が相次いだ。当期も繊維関連上場企業の2、3月決算(特に小売業)を見ても、一部を除き売上・収益低下が見られるなど依然として業況が厳しいことを示しているが、そうした中で前年同期と比べ、倒産件数・負債額ともに減少したのは、各企業の自助努力、さらに緊急保証制度や金融円滑化法の施行、金融機関のリスク対応が功を奏した結果と考えられる。

しかし、特別制度融資の弁済期限到来など中小企業にとっては資金面の課題が払拭されておらず、事業継続を断念せざるを得ない先が増加することも懸念される。

業種別では「小売商」が103件で最も多く全体の38.1%を占め、次いで「紳士・婦人・子供服・被服製造卸」59件(21.9%)、「ニット製品・洋品雑貨製造卸」34件(12.6%)となり、この3業種で全体の72.6%占めた。以下は「その他」21件、「織物卸」14件、「染色整理・特殊加工」「織物製造」各10件、「寝具・インテリア製品製造卸」9件、「呉服・和装製品製造卸」7件、「紡績・撚糸製造」2件、「商社・貿易」が1件だった。

原因別では「業績ギリ貧」が211件で全体の78.1%を占め、次いで「業況急変」29件、「資金力薄弱」13件、「貸し倒れ損失」7件、「放漫経営」6件、「信用度薄弱」2件、「融手連鎖」「過剰投資」各1件となった。

**▼京都▲ 発生件数=11件(前年上半期19件) 負債額=11億7900万円
(前年上半期190億1600万円)****▼滋賀▲ 発生件数=1件(前年上半期9件) 負債額=1億4000万円
(前年上半期10億800万円)**